

令和4年7月8日  
自己点検・評価委員会

聖徳大学短期大学部は、人材養成に関する目的及び教育研究上の目的並びに社会的使命を実現するため、教育研究活動等の状況について、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく評価基準を自ら設定し、継続的に点検及び評価を行い、「教育の質」及び「学生の学びの質」の向上に努めています。

この令和3（2021）年度の取り組み結果について、以下のとおり公表します。

## 1. 定員充足への取り組み

少子化に伴い18歳人口が減少する中、すべての短期大学にとって入学定員及び収容定員を充足する学生を確保することは、安定した経営の下で質の高い教育を行う上で大きな要素となります。本学においては、学生募集への取り組みの結果、保育科では前年度の実績を上回る入学者を確保しましたが、目標とする入学定員の充足には届いていない状況です。総合文化学科においては、オープンキャンパス来場者数の伸び悩みがそのまま志願者数に影響し、入学者実績は前年度に及びませんでした。今後は、両学科ともに着実に志願者を確保するため、魅力ある教育内容による学びの特色化を推進し、オープンキャンパス来場者を増加させ入学定員充足の強化を図ります。

また、コロナ禍にあって昨年度までは減少していた中途退学者が、若干増加傾向にあるため、中途退学に至る原因を早期に分析・把握し、適切な対応に取り組みます。

## 2. 教育の質向上に向けた取り組み

### ○オンライン授業を併用した新たな教育手法の確立と授業の質向上への取り組み

令和3（2021）年度も新型コロナウイルス感染症への対応に終始した1年となりました。その中において、全学FDとして「新型コロナウイルス感染防止を踏まえた新しい授業実践の取り組み」をテーマに、オンライン授業に関する各学科の取り組み事例の紹介を行うなど、教員相互で授業実践の取り組みを振り返るとともに継続的な点検評価・改善による授業の質の更なる向上に取り組み、新たな教育手法の確立にも取り組みました。

### ○卒業認定・学位授与の方針で掲げる学習成果の可視化・体系化の取り組み

令和3（2021）年度に全学科で取り組んだ、「学習成果と指標の関係図」の作成・検討等を通じ、各学科が卒業認定・学位授与の方針に掲げる学習成果の達成度の観点から、いかにその到達状況を学生に学習者目線で体系的に伝えていくか、一年間かけ真摯に検討しました。その結果、卒業認定・学位授与の方針に掲げる学習成果に紐付けるなど、様々な工夫を凝らした各種ルーブリックの作成や、科目群GPA値の客観指標としての活用や学生への丁寧な説明等、多様で多面的な評価手法を体系化した学習成果の達成度の測定が各学科で急速に進んでいます。

## ○本学独自の新たな学び「Field Linkage」と「Business Field Linkage」の本格始動

令和3(2021)年度より、総合大学の強みを活かし各学科が連携する新たな学びのプログラム「Field Linkage」を全学的に本格始動しました。ここでは、学科や地域との連携による学際的な学びにより、多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力の育成を目指しています。さらに、「Business Field Linkage」として、教養教育を通し育まれた確かな人間性と学際的な教養に、学科で身につける高度な専門性を活かして、経営やリーダーシップの最前線を実践的に学ぶ教育プログラムも本格始動しています。ここでは、専門的な学びとともに、先見的な視点とスキルで課題解決に向けてリーダーシップを発揮できる新時代の女性リーダーの育成を目指しています。

### 3. 就職実績の向上に向けた取り組み

クラス担任やゼミ担当を中心に学科とキャリア支援を担当する事務局による教職協働の連携が有効に機能しており、早期に学生への積極的な働きかけを行い就職意識の向上を図ることで、令和3(2021)年度には昨年度の92.3%を上回る97.4%の実就職率を達成しています。今後も、新たに取り入れた「面接チャレンジ会」など、全教職員によるフォロー体制を充実させ、学生一人ひとりのニーズに合わせた、きめ細かで丁寧な全方位支援により学生の入学から就職・卒業後までのシームレスなサポートに取り組めます。

### 4. 社会貢献・地域連携の取り組み

令和3(2021)年度においても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、やむを得ず自粛、縮小したものもありましたが、保育科では令和3(2021)年10月10日(日)松戸中央公園で開催された「アートパーク 14～おさんぽミュージアム～」で、地域の方々とゼミや有志が集まり展示を行いました。他にも、保育科の有志で構成される「まつどソング研究グループ」が、保育科の学びを活かした地域貢献活動として子どもたちに「まつど」を身近に感じてもらうため、地域の体操「まつどたんけんたい」を創作しました。この体操は学園祭で初披露され、動画も作成して学科ブログで公開しました。また、総合文化学科では松戸市の名産品である矢切ねぎを使ったレシピ集が好評を得て、地元の野菜ソムリエの方を通して地域イベントでレシピを配布したり、「松戸こどもかるた」を松戸市の小学校に進呈するなど、学科の特色や専門性を活かした学生のボランティア活動等を通じた地域・社会への貢献活動を行いました。

### まとめと今後の方向性

本学の掲げる建学の理念「和」が示す概念を対外的に発信するキーワード「グローバル」「ダイバーシティ」「サステイナブル」を起点とする教育改革を推進し、本学を選択してくれた多様な能力を有する学生が、世界を舞台に活躍できる女性として調和ある社会の発展に貢献できるよう、全学的な教育体系全般について、改めて学習成果の検証を行い、さらなる教育の質の向上に向けた取り組みをより一層推進していきます。

以上